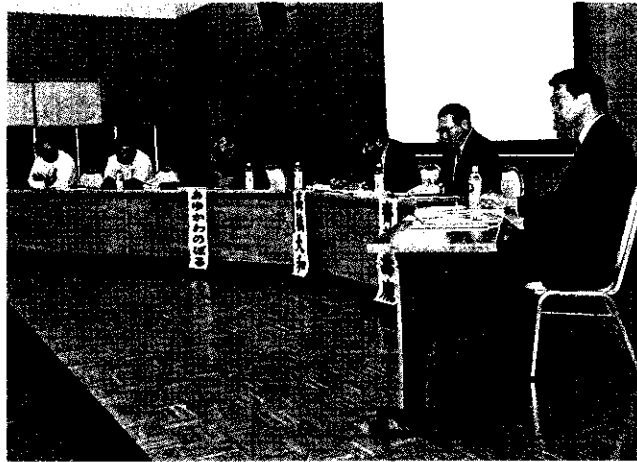


秋田市

秋田支局
☎ 018-888-1870
FAX 018-823-1780



河川と環境考える

でム
辺ー
河フ

節水農業の取り組みを

身近な河川や世界の水環境について考える「水フォーラム2008 in あきた」が十六日、秋田市河辺のプラザクリプトンで約百人が参加して開かれ、同市出身の元国際環境審議官で国際水ジャーナリストの吉村和就さんの講演やパネルディスカッションを行った。同市の雄物川沿いや岩見川沿いなどで、サイクリングによる地域活性化に取り組んでいるあきたサイクリングタウン推進協議会(黒崎一紀会長)の主

催。
吉村さんは「世界の水・日本の水」と題して講演。二〇〇六年度の日本の食料自給率がカロリーベースで39%となってお

り、農業用水には年間五百七十億リットルを使っていると説明。「政府が目標とする食料自給率80%を実現するためには、現在の農業用水では不足する」と指摘し、「日本は官民一体となり節水農業や海水淡水化の技術向上に取り組む必要がある」と述べた。

続くパネルディスカッション

では同市のエッセイストあゆかわのぼるさんが「川が生活と密接にかかわっている」という意識が薄れた。昔は川にごみを捨てても、一定の節度を守っていたものだが、現在の雄物川はものすごいことになっていると嘆いた。高橋大和・新屋温泉代表は「掛け流しと循環を併用して、大切に温泉を使っている」と水資源保全の取り組みを説明した。

吉村さん(右)らがパネルディスカッションを行ったフォーラム